

地域を限定した小中高等学校における ICT 活用の調査（速報）

1. 調査名

「障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」に関するアンケート調査（小中高等学校版）

2. 目的

本調査では、高知県、仙台市、品川区の3つの自治体の小中高等学校への質問紙調査により、小中高等学校において、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級などの ICT 機器及び教材の整備状況を把握し、その活用についても情報収集することを目的とする。また、調査の結果から、特徴的な取り組みについての情報を整理し、発信する。

3. 方法と内容

（1）方法

高知県、仙台市、品川区の各教育委員会教育長を通し、自治体下の小学校、中学校、高等学校の校長宛に調査を依頼し、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級の状況を把握している「特別支援教育コーディネーター」を回答者とした。回答については、研究所 Web サイトから用紙をダウンロードして回答し、電子メールによる返信を求めた。

3地域を選定理由としては、品川区は平成 26 年度中に区内の特別支援学級・通級指導教室へ iPad 導入（2人に1台を配置）が決定しており、今後特別支援学級、通級指導教室を中心とした特別支援教育における ICT 活用が活発になることが見込まれたこと、また仙台市は文部科学省の委託を受けた宮城教育大学が、発達障害を対象とする通級指導教室と連携し ICT 活用を推進していたこと、高知県は特別支援教育を柱に据えた学校づくりということで、ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりをしており、その中で ICT 機器を取り入れていくという方針であることが挙げられる。また、都道府県、指定都市、特別区という行政規模の違う3地域について調査することで、限られた地域ではあるが偏りのない情報を得ることができるように配慮した。

（2）期間

平成 26 年 8 月 7 日～11 月 30 日（支援機器等の設置については 8 月 1 日時点の状況について回答を求めた）

（3）内容

内容については、以下のような構成とした。

【I 基本情報】

- ・学級数
- ・通級指導教室、特別支援学級の設置数と障害種別
- ・児童生徒数

- ・職員，支援員，補助員，介助員の人数

【Ⅱ 校内体制】

- ・ICT活用に関わる校務分掌の有無，その校務分掌の分掌名・人数・実施頻度，その分掌が機能しているかどうか
- ・ICT支援員の有無，支援員の名称・人数・頻度
- ・ICT活用に関する校内研修の実施の有無とその回数，内容

【Ⅲ 機器の整備】

- ・無線LAN環境の有無と設置場所，ネットワークの有無
- ・ICT機器の設置数と設置場所（通常の学級，特別支援学級，通級指導教室，特別教室，コンピュータ室，その他）
- ・タブレット型コンピュータの導入の有無と使用しているOS

【Ⅳ デジタル教科書の整備】

- ・使用しているデジタル教科書の有無とその教科
- ・DAISY教科書・教材の導入の有無と使用している児童生徒の人数

【Ⅴ 特別な支援を必要とする児童生徒へのICT機器の活用状況】

- ・活用事例の有無とその内容（障害種，指導の場も記入）

4. 調査結果

（1）回収結果

本調査では，回収状況を見ながら窓口となった教育委員会を通し督促を行い，その結果，各地区とも回収率が上がった。

回収率：77.8%（発送総数：562校 回収総数：437校）

（2）調査結果

本調査で回収した回答は429であるが，小中一貫校7校，中等教育学校1校がまとめて回答をしているため，回収総数は437としている。また，結果については無回答数を除いて割合を算出し，有効回答数をnとして示す。

【Ⅰ 基本情報】

1. 学級数

法令上，学校規模の標準は，学級数により設定されており，文部科学省の学級数による分類を元に表1のように整理した。高等学校の分類については，都道府県によって適正とする学級数に差があるため，今回は中学校の学級数による学校規模の分類に揃えた。左欄の「番号」は，今後の分析で使用するため，回答のあった437のデータすべてに付ける「学校規模番号」である。

番号		学級数		
		小学校	中学校	高等学校
1	極小規模校	複式 3 学級以下	複式 2 学級以下	
1	過小規模校	5 学級以下	2 学級以下	
2	小規模校	6～11 学級	3～11 学級	
3	適正規模校	12～18 学級		
4	大規模校	19～30 学級		
5	過大規模校	31 学級		

表 1 学級数による学校規模の分類

結果からは、小学校では 42.4%，中学校は 59.1%が小規模以下であった。高等学校は生徒

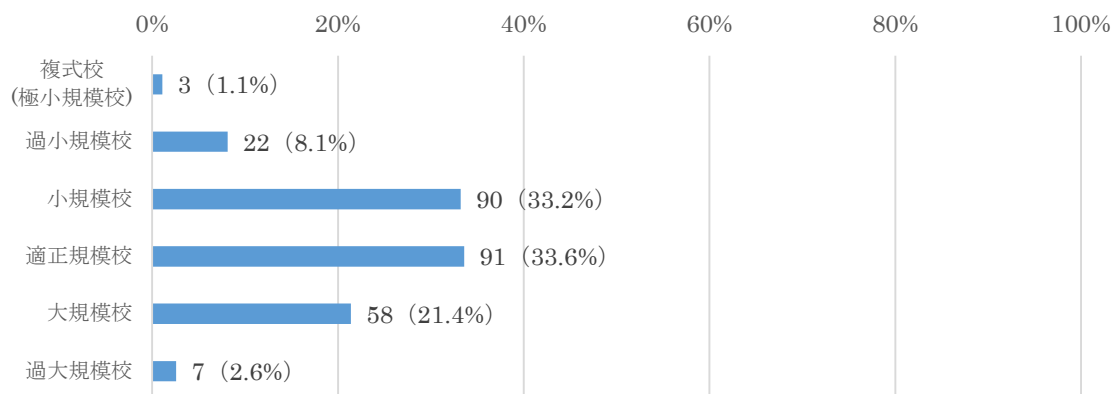


図 1 学級数 (小学校)

が集約されるため小規模校は 39.3%と少なくなっている。(図 1, 図 2, 図 3)

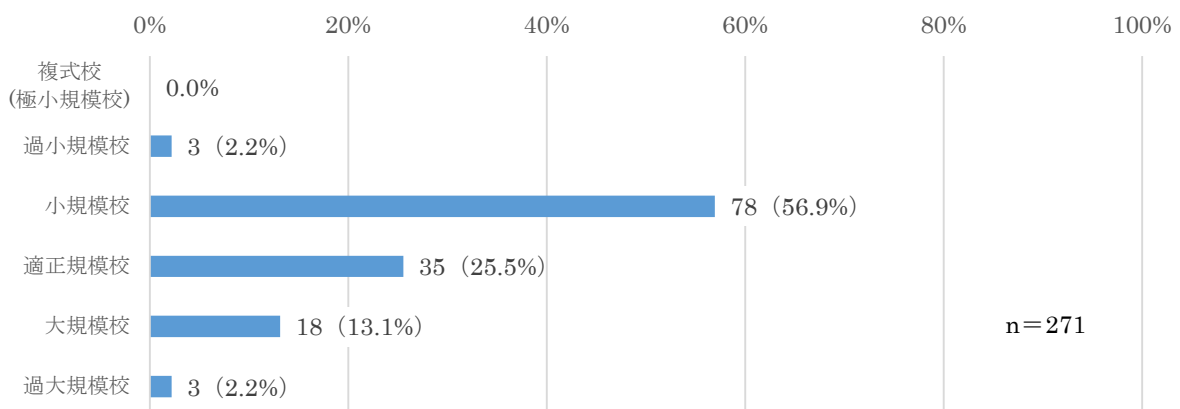


図 2 学級数 (中学校)

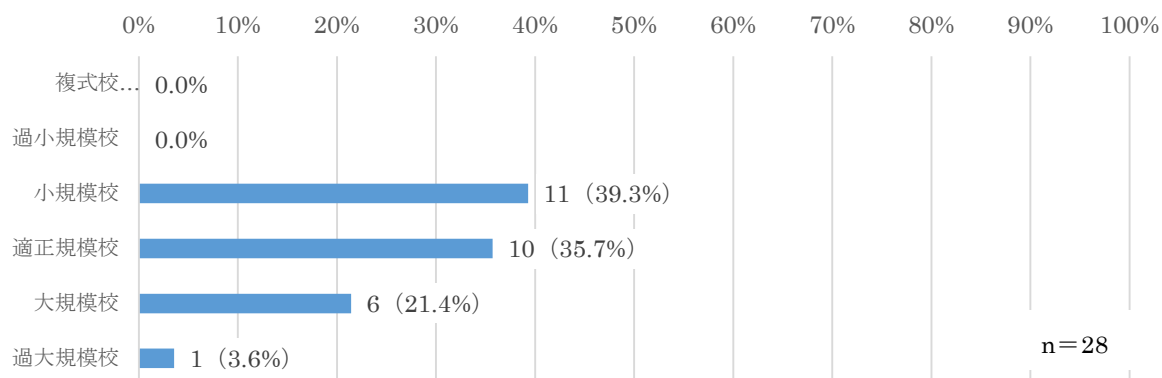


図 3 学級数 (高等学校)

2. 児童生徒数

児童生徒数は、小・中学校では 100 人未満の学校が最も多く、小学校 26.9%、中学校 34.1%であった。高等学校では 100 人以上 200 人未満 (100 人台) が最も多く、28.6%であった。(図 4, 図 5, 図 6)

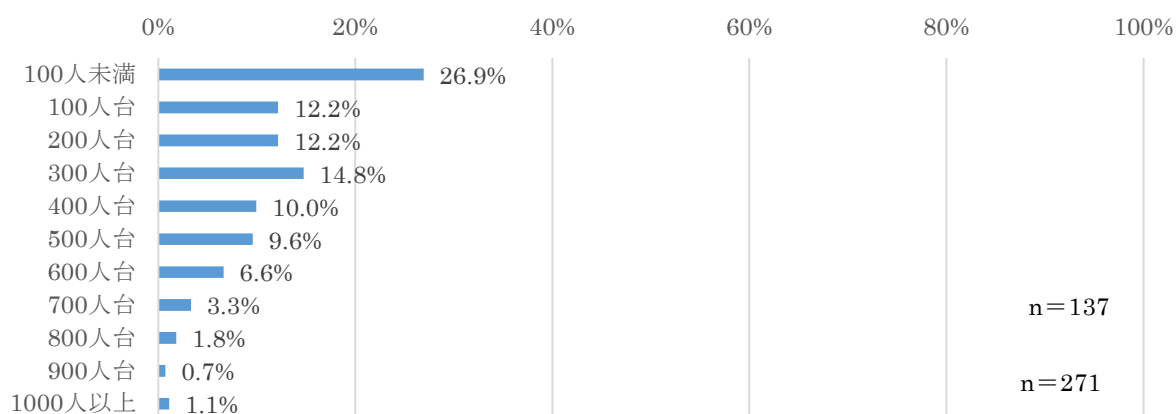


図 4 児童生徒数 (小学校)

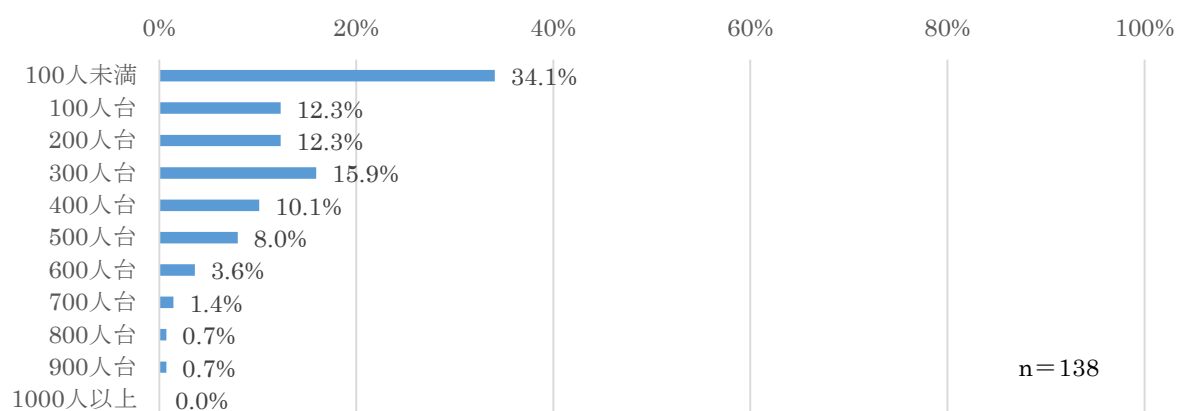


図 5 児童生徒数 (中学校)

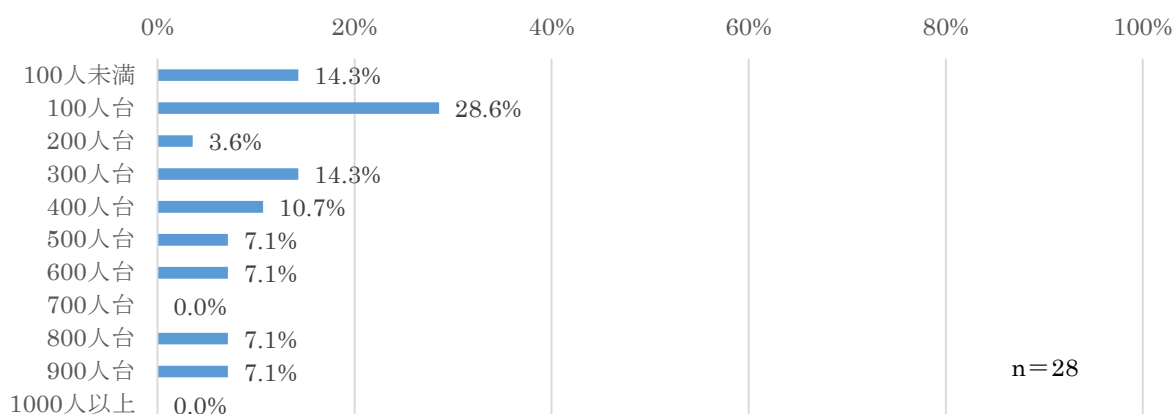


図 6 児童生徒数（高等学校）

【Ⅱ 校内体制】

1. ICT を活用するための校務分掌の有無

ICT を活用するための校務分掌は、68.3%が「ある」と答えた。また、ある場合の人数は「1人」が最も多く、51.7%と半数を超えた。（図 7、図 8）

さらに、その分掌が「機能しているか」という問いには、「十分機能している」「機能している」が合わせて 42.7%であり、「ある程度機能しているが特定の教員に依存している」は 54.3%であった。（図 9）

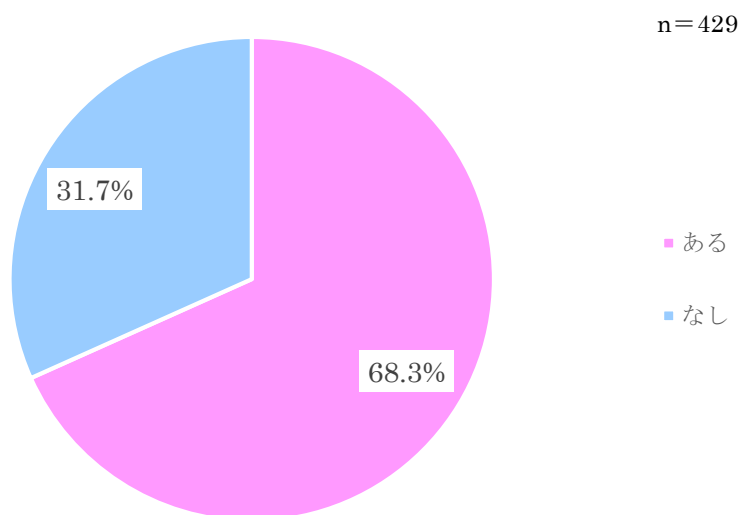


図 7 ICTを活用するための校内分掌

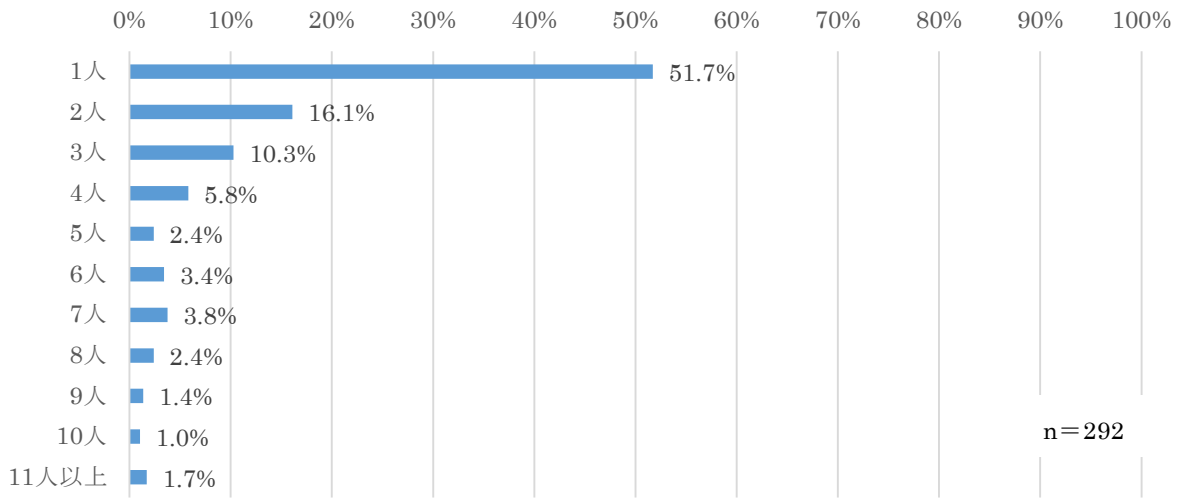


図 8 校内分掌の人数

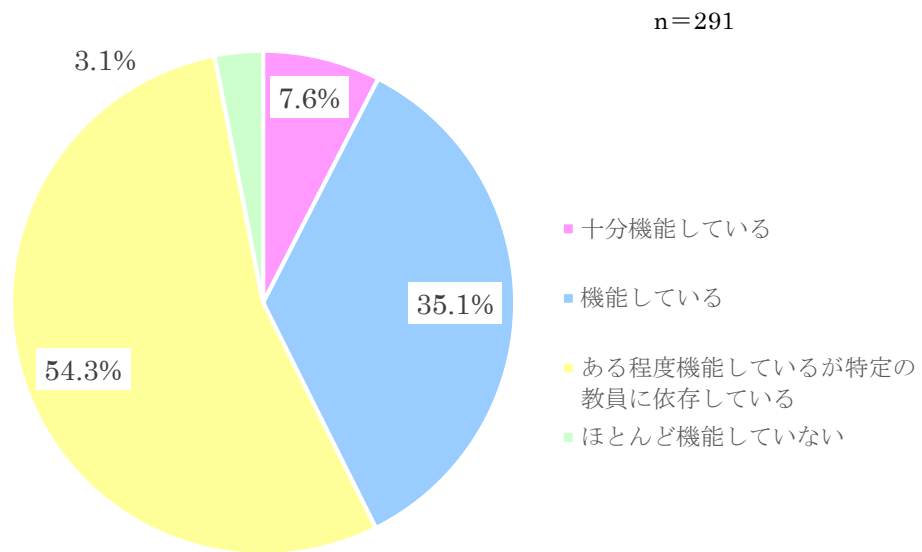


図 9 校内分掌は機能しているか

2. ICT 機器を使った授業を支援する「ICT 支援員」の配置の有無

「ICT 支援員」の配置については、「いる」との回答は 2.3%であり（図 10）、ほとんどが一人配置であった。

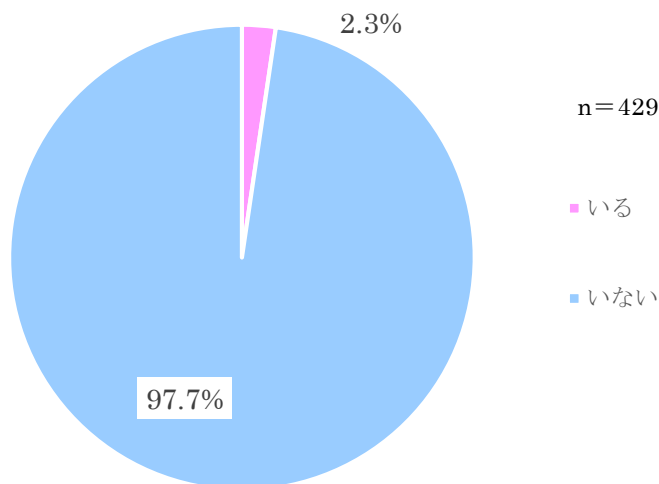


図 10 「ICT支援員」の配置の有無

3. ICT 活用に関する校内研修の実施

ICT 活用に関する校内研修については、半数である 50.5%が「実施している」と回答した。（図 11）また、年間の実施回数は、「1回」が最も多く 45.8%であった。ただし、年間 4回以上実施している学校も 15.0%あり、学校によりばらつきがある。（図 12）

また、研修内容は自由記述でたずねたが、ICT 機器を実際に使用しながら行う「演習形式の研修」が多数を占めた。

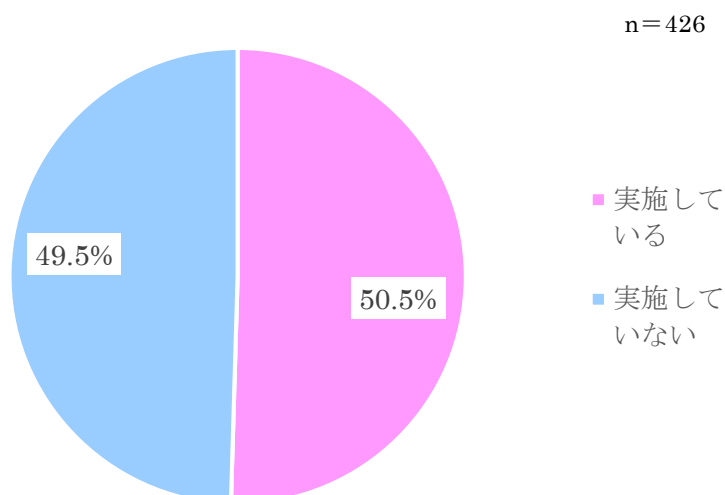


図 11 ICT活用に関する校内研修の実施の有無

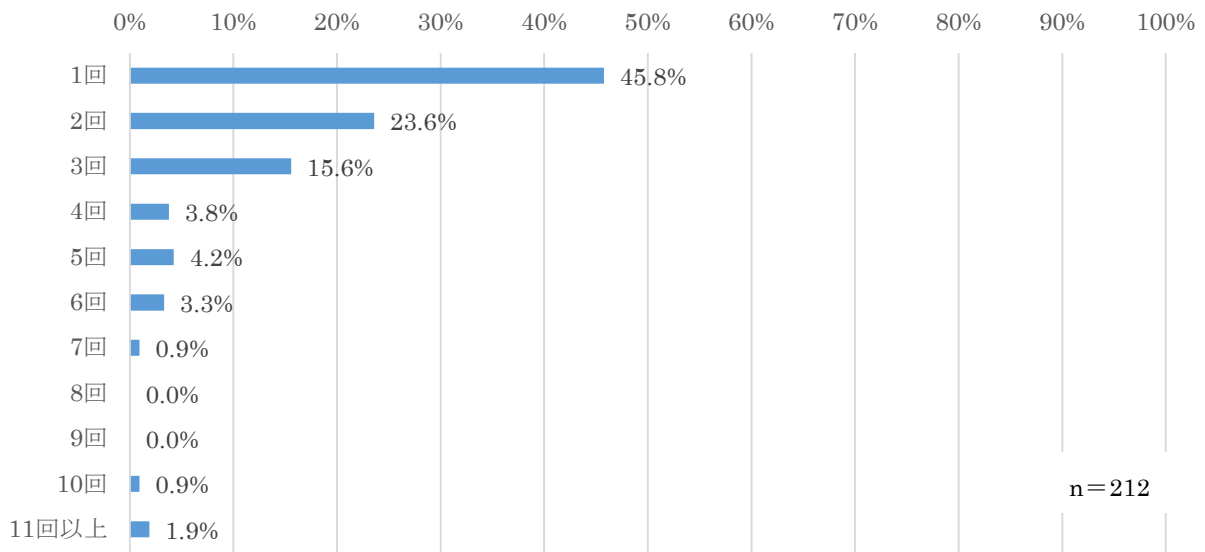


図 12 年間の実施回数

【Ⅲ 機器の整備】

1. 学校の情報環境の整備の一つとして、校内で無線 LAN が整備されている場所があるかをたずねた。44.9%が「ある」との回答であった。(図 13) また、無線 LAN が整備されている場所について各校にたずねたところ、「職員室」が 90.6%で最も多く、次いで「コンピュータ室・視聴覚室」が 69.8%であった。「通常の学級」も 48.4%であった。(図 14)

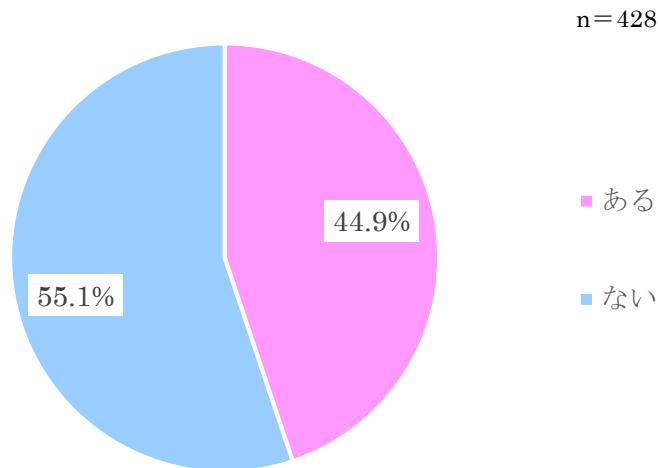


図 13 学校内に無線LANに接続できる環境があるか

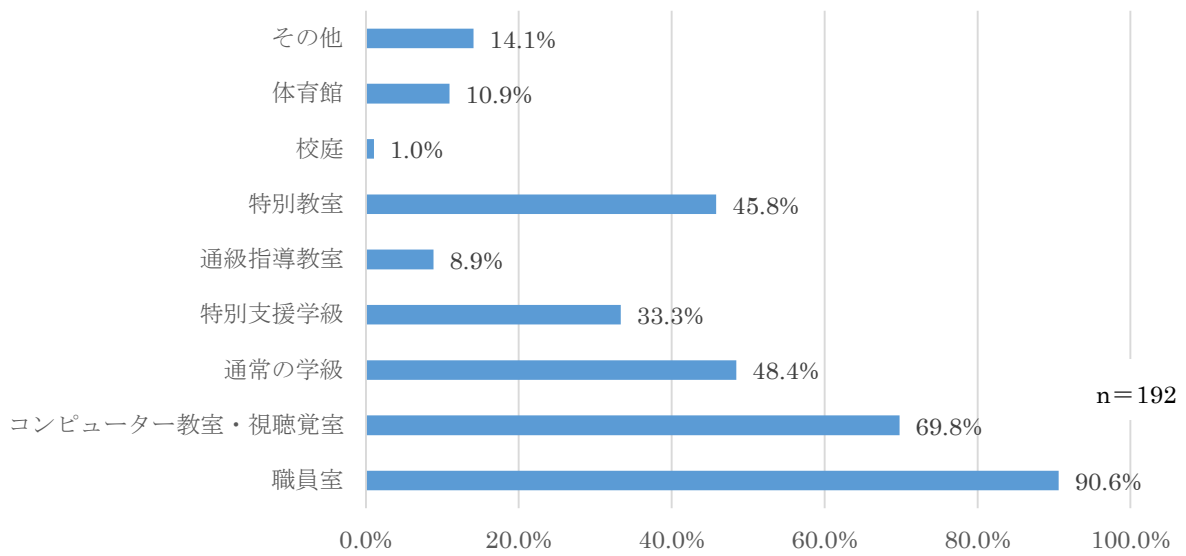


図14 無線LANが設置されている場所（複数回答）

また、ネットワークのセキュリティポリシーについて、有無とその主体についてたずねた。「教育委員会レベルでもっている」との回答が78.8%、「学校独自でもっている」は18.3%であった。（図15）

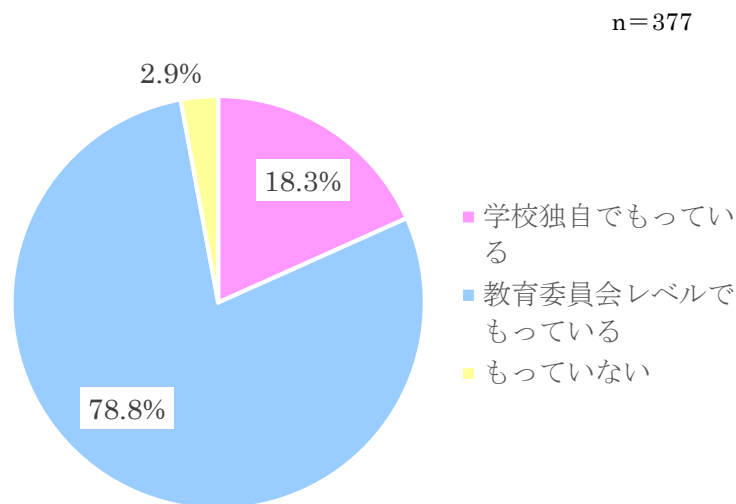


図15 ネットワークのセキュリティポリシーの有無

2. ICT 機器の整備状況

各学校に対して、ICT 機器の設置場所と設置台数をたずねた。ここでは、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室の三箇所に、①電子黒板、②コンピュータ画面を拡大表示するもの、③タブレット型コンピュータ、④実物投影機、⑤教育用コンピュータが各何台設置されているかについて報告する。なお、「1 台以上の設置がある」と答えたものを有効回答とした。

(1) 通常の学級の設置状況

①電子黒板（回答数：121 校）

電子黒板は、10 台未満が 112 校(92.6%)、10～19 台が 8 校(6.6%)、30～39 台が 1 校(0.8%)であった。0 台との回答は 104 校であった。

②コンピュータ画面を拡大表示するもの（回答数：224 校）

設置数は①～⑤の ICT 機器の中で最も多かった。10 台未満は 120 校(53.5%)、10～19 台は 77 校(34.4%)、20～29 台が 22 校(9.8%)、30～39 台は 3 校(1.3%)、40～49 台は 2 校(0.9%)であった。0 台との回答は 51 校であった。

③タブレット型コンピュータ（回答数：21 校）

タブレット型コンピュータの設置校は少なく「設置あり」の回答は 21 校にとどまった。10 台未満は 9 校(42.8%)、10～19 台は 2 校(9.5%)、20～29 台が 3 校(14.3%)、50～99 台が 3 校(14.3%)、100 台以上は 4 校(19.0%)であった。0 台との回答は 141 校であった。

④実物投影機（回答数：140 校）

実物投影機は、「②コンピュータ画面を拡大表示するもの」に次いで設置数が多く、10 台未満が 109 校(77.8%)、10～19 台が 29 校(20.7%)、20～29 台、30～39 台が各 1 校(0.7%)であった。0 台という回答は 91 校であった。

⑤教育用コンピュータ（回答数：99 校）

教育用コンピュータは、ばらつきがあり、10 台未満が 52 校(52.4%)、10～19 台が 24 校(24.2%)、20～29 台が 11 校(11.1%)であった。30～39 台は 4 校(4.0%)、40～49 台は 5 校(5.1%)であったが、50～99 台の学校は 3 校(3.0%)であった。0 台との回答は 106 校であった。

(2) 特別支援学級の設置状況

特別支援学級においては、②以外は「0 台」または「無回答」が非常に多く回答数が少ないことから、設置がない状況が推測された。

①電子黒板（回答数：17 校）

回答のあった 17 校すべてが 5 台未満の設置であった。

②コンピュータ画面を拡大表示するもの（回答数：168 校）

回答のあった 168 校すべてが 5 台未満の設置であった。

③タブレット型コンピュータ（回答数：17校）

回答のあった17校中、5台未満の設置との回答が14校、5～9台が1校、10～19台が2校であった。

④実物投影機（回答数：32校）

回答のあった32校すべてが5台未満の設置であった。

⑤教育用コンピュータ（回答数：91校）

回答のあった91校中、5台未満の設置との回答が88校、5～9台が3校であった。

（3）通級指導教室

通級指導教室においても、「0台」または「無回答」が非常に多く回答数が少ないことから、設置がない状況が推測された。

①電子黒板

設置されているとの回答はなかった。

②コンピュータ画面を拡大表示するもの（回答数：21）

21校すべてが5台未満の設置であった。

③タブレット型コンピュータ（回答数：4）

5台未満の設置が3校、5～9台が1校であった。

④実物投影機（回答数：1）

5台未満の設置が1校であった。

⑤教育用コンピュータ（回答数：15）

5台未満の設置が14校、5～9台が1校であった。

3. タブレット型コンピュータのOS

タブレット型コンピュータのOSについてたずねたところ、93校から回答があった。使用しているOSは、「WindowsOS」が68校(73.1%)、「iOS」が18校(19.4%)、「AndroidOS」が3校(3.2%)、その他が4校(4.3%)であった。

【IV デジタル教科書等の整備】

1. 校内で使用しているデジタル教科書の有無

学校で使用しているデジタル教科書の有無についてたずねた。使用しているデジタル教科書が「ある」との回答は 55.6%と半数を超えた。(図 16)

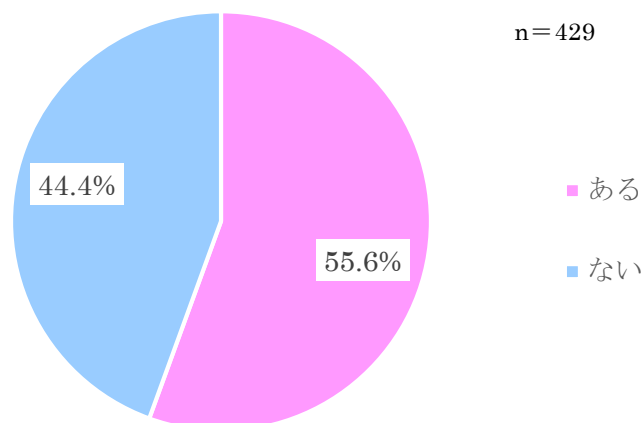


図 16 校内で使用しているデジタル教科書の有無

2. デジタル教科書を使用している教科

デジタル教科書を使用している教科についてたずねた。「デジタル教科書を使用している」と答えた 235 校のうち、小学校は 179 校、中学校は 56 校であった。高等学校での使用は無かった。教科の内訳は以下の通りである。なお、回答は複数回答である。

- ・小学校 1～2 年：「国語」141 校、「算数」70 校、「その他」15 校
- ・小学校 3 年生以上：「国語」158 校、「算数」104 校、「理科」52 校、「社会」48 校，
「その他」28 校
- ・中学校：「国語」15 校、「数学」24 校、「理科」25 校、「社会」18 校、「英語」34 校，
「その他」10 校

3. DAISY 教科書・教材の利用の有無

DAISY 教科書・教材を利用している児童生徒の有無についてたずねた。「いる」との回答は 3 校であった。

【V 特別な支援を必要とする児童生徒への ICT 機器の活用状況】

ここでは、特別な支援を必要とする児童生徒への ICT 機器の活用状況について、事例毎に以下の項目で回答を求めた。項目は、「学年」「障害種」「指導の場」「子どものニーズ・特性」「機器の種類・特性」「指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果」である。

回答は、小学校で 409 件、中学校で 145 件、高等学校で 11 件であった。それぞれの校種で、「学年」による大きな偏りはなかった。

「障害種」については、自閉症が 136 件、知的障害が 134 件と多く、次いで ADHD が 26 件であった。すべての障害について回答があった。

「指導の場」については、特別支援学級が 312 件と最も多く、通常の学級が 69 件、通級指導教室が 29 件であった。

(3) 学校規模を指標とした分析

単純集計の結果から、ICT 機器の整備に関しては学校規模との関連があるのではないかと推測された。また、研究協議会においても、学校規模との関連はぜひおさえておくようにとの意見が出されたことも踏まえ、自由記述の回答や、タブレット型コンピュータの OS についての回答、DAISY 教科書に関する回答、活用事例以外のすべての回答について、学校規模を軸とした分析を行うこととした。

実際に、この指標を元に分析を行ったものが図 17 である。

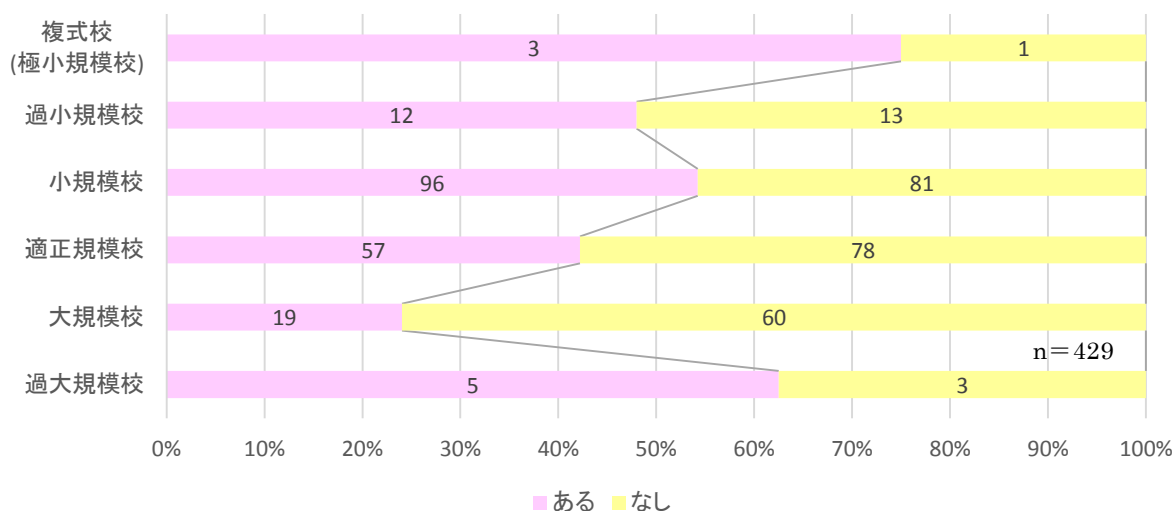


図 17 校内で無線 LAN に接続できる環境があるか

実数が違うため安易な比較はできないが、無線 LAN に関しては、適正規模、大規模校と比べ小規模校に多く設置されていることが分かる。現在このような学校規模による分析を進めているところである。

(4) ICT 機器の整備状況についての分析

「Ⅲ-2 ICT 機器の整備」の状況については、小学校、中学校、高等学校と学校種で分けた結果について現在集計を行っている。

5. 結果のまとめ

今回示した集計結果については、地域を限定したものであったが、通常の小中学校及び高等学校において、ICT 支援員が配置されている学校がほとんどないことが分かった。また、ネットワークのセキュリティポリシーを学校独自で決めているところは 18.3%と少なく、教育委員会で決めているところが 78.8%と多かった。これらは今までの文部科学省の調査や過去の研究等での実際の訪問からある程度予測できたことであった。

一方で、無線 LAN の設置については、各教育委員会のセキュリティ強化の流れもあり設置が少ないだろうとの予測をしていたが、44.9%と全回答 429 の半数近くが設置していた。また、デジタル教科書についても同様に全回答 429 の半数を超える 55.1%の学校で使用されていた。これらは、予測以上の数値であり、地域による差も考慮した上で整備の背景や実際の活用状況などについて、次年度の訪問調査でもより詳細な情報収集を行いたいと考える。

なお、「V 特別な支援を必要とする児童生徒への ICT 機器の活用状況」の設問でたずねた活用事例については、観点を設けて特徴ある取組について絞り込んでいるところである。

【参考文献】

文部科学省（2002）事務連絡 平成一四年度公立学校施設整備費国庫負担（補助）事業認定申請等に係る事務処理上の留意点について
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t20020401008/t20020401008.html)
2015/02/05 アクセス

「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」に関するアンケート調査 (小中高等学校版)

はじめにお読みください

1. 本調査の目的

本調査は、国立特別支援教育総合研究所における、専門研究A「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例も収集と整理」(平成26年度～平成27年度)の研究の一環として行う調査です。本調査では、ICTの活用を中心に、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室に対して、ICT機器及び教材の整備状況を調査し、その活用に関する課題を整理することを目的としています。

この調査のデータは、全国の通常の学級、特別支援学級、通級指導教室に関する全体的な状況を把握するために使用し、個々のデータをその学校や設置者、回答者が分かるような形で公表することはありませんが、特徴的な事例については、訪問調査の対象とさせて頂くとともに、研究成果報告書や文部科学省が進めている教材データベース等への掲載について、別途をお願いすることがあります。

なお、この調査は平成26年8月1日現在の状況をご記入ください。

2. 本調査の回答者

本調査では、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室におけるICT機器及び教材の整備状況を把握されている方に回答を頂くことを想定しています。そのため、「特別支援教育コーディネーター」の担当者に回答頂きますよう、お願い申し上げます。

3. 調査結果の公表について

本調査結果について、回答者個人や学校が特定される形での公表は一切行いません。

4. 締め切り

回答はメールに添付の上、平成26年9月5日(金)までに返信ください。

回答専用e-mail : v-ict-res2@nise.go.jp

5. 問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

問い合わせ専用e-mail:

v-ict-inquiry@nise.go.jp

研究代表者: 金森克浩

研究副代表者: 梅田真理

【参考文献】本調査に関する用語等は、下記の文献を参考にしています。

「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm

※このファイルはEXCEL2013で作成しておりますので、EXCEL2007以上での開封を推奨いたします。

※プルダウンで選択内容を変更したい時は、「delete」キーを押して、再度選択してください。

【アンケート調査の質問項目】

※本調査では、次のⅠ～Ⅴの5区分について伺います。

Ⅰ. 基本情報	Ⅳ. デジタル教科書等の整備
Ⅱ. 校内体制	Ⅴ. 特別な支援を必要とする児童生徒へのICT機器の活用状況
Ⅲ. 機器の整備	

※アンケートの入力に関する注意点

アンケートの入力に関しましては以下の点に気を付け入力してください。

- ① 各設問は太枠内に入力してください。太枠以外のセルには入力しないでください。
- ② ※水色のセルは自由記載回答です。セル内での改行は行わないようお願いいたします。
- ③ ※ピンク色のセルは選択式の設問です。プルダウンから選択してください。

I 基本情報

1. 学校名・校長名・記入者名・記入者分掌名・メールアドレス
各項目について、以下の欄に記入ください。

学校名	
校長名	
記入者の氏名	
記入者の分掌名	
メールアドレス	

2. 学級数
貴校の学級数について、以下の欄に記入ください(特別支援学級を含む)。

小学校	
中学校	
高等学校	

3. 特別支援学級数・通級指導教室数
(1)障害種別の特別支援学級数について、以下の欄に記入ください。

障害種別	特別支援学級数
知的障害	
肢体不自由	
病弱・身体虚弱	
弱視	
難聴	
言語障害	
自閉症・情緒障害	

- (2)障害種別の通級指導教室数について、以下の欄に記入ください。

障害種別	通級指導教室数
言語障害	
自閉症	
情緒障害	
弱視	
難聴	
学習障害	
注意欠陥多動性障害	
肢体不自由	
病弱・身体虚弱	
複数障害対応(LD・ADHD通級等)	

4. 児童生徒数
児童生徒数について、以下の欄に記入ください。

小学校		人
中学校		人
高等学校		人

5. 職員数・支援員・補助員・介助員
職員、支援員、補助員、介助員の人数について、以下の欄に記入ください。

	教職員数	支援員	補助員	介助員
小学校				
中学校				
高等学校				

II 校内体制

1. ICTを活用するための校内分掌がありますか。

(1) 選択肢一覧	1=ある 2=なし
-----------	--------------

【(1)で「ある」を選んだ方へ】

(2)「1=ある」場合、分掌名、人数、頻度をお知らせください。頻度は1=週、2=月の選択肢がありますので、プルダウンよりお選びください。

※選択肢一覧	1=週 2=月
--------	------------

分掌名			
人数			
頻度		回	

(3)「ある」場合、その校内分掌は機能していますか？

(3) 選択肢一覧	1=十分機能している 2=機能している 3=ある程度機能しているが特定の教員に依存している 4=ほとんど機能していない
-----------	--

2. 学校にはICTを使った授業を支援する「ICT支援員」はいますか。

(1) 選択肢一覧	1=いる 2=いない
-----------	---------------

【(1)で「いる」を選んだ方へ】

(2)「1=いる」場合、名称、人数、頻度をお知らせください。頻度は1=週、2=月の選択肢がありますので、プルダウンよりお選びください。

※選択肢一覧	1=週 2=月
--------	------------

名称			
人数			
頻度		回	

3. ICT活用に関する校内研修を実施していますか。

(1) 選択肢一覧	1=実施している 2=実施していない
-----------	-----------------------

【(1)で「実施している」を選んだ方へ】

(2)「実施している」場合、どのような内容の研修を実施していますか。

※選択肢一覧	1=全校 2=学年 3=個人
--------	----------------------

(記入例)

内容	演習を伴う研修を実施	
年間の実施回数	3	
対象	1	

内容		
年間の実施回数		
対象		

内容		
年の回数		
対象		

Ⅲ 機器の整備 ※学校の台帳等に記載のある機器についてご回答ください。

1. 学校の情報環境についてお聞きます。

(1)学校内に無線LANに接続できる環境はありますか。

(1)選択肢一覧	1=はい 2=いいえ
----------	---------------

--

【(1)で「はい」を選んだ方へ】

(2)「はい」の場合、どこにありますか。以下から選んでください。(複数回答可)

	1=職員室	2=コンピュータ教室・視聴覚室	3=通常の学級	4=特別支援学級	5=通級指導教室
選択肢					
	6=特別教室	7=体育	8=校庭	9=体育館	10=その他
特別教室内訳					
その他					

(3)ネットワークのセキュリティーポリシーはもっていますか。

(3)選択肢一覧	1=学校独自でもっている 2=教育委員会レベルでもっている 3=もっていない
----------	--

--

2. 以下の各機器について、学校の各場所に設置されている台数を回答してください。
また、今年度中に導入されることが決定している場合には、その台数を括弧書きで記入ください。

機器の名称	設置場所の台数		
	通常の学級	特別支援学級	通級指導教室
電子黒板			
コンピュータ画面を拡大表示するもの ^{注1)}			
タブレット型コンピュータ			
実物投影機			
スキャナ			
デジタルカメラ			
教育用コンピュータ ^{注2)}			
機器の名称	導入台数		
	特別教室	コンピュータ教室	その他(職員室等)
電子黒板			
コンピュータ画面を拡大表示するもの ^{注1)}			
タブレット型コンピュータ			
実物投影機			
スキャナ			
デジタルカメラ			
教育用コンピュータ ^{注2)}			

注1)「コンピュータ画面を拡大表示するもの」とは、プラズマテレビ、液晶テレビ、プロジェクタなどのコンピュータ画面を拡大して表示できる機器を言う。

注2)「教育用コンピュータ」とは、タブレット型以外の教育用コンピュータをいう。

3. タブレット型コンピュータを導入している場合はどのようなOSを使っていますか。
以下の該当する項目を選択してください。

3. 選択肢一覧	1=Windows 2=iOS 3=Android 4=その他()
----------	---

その他	1
-----	---

IV デジタル教科書等の整備

1. 校内で共通して使用しているデジタル教科書^{注1,2)}はありますか。

(1) 選択肢一覧	1=ある 2=ない
-----------	--------------

--

(2) (教科内の科目についてはあるものを記入してください。例: 社会(世界史))

小学校1～2年

	1=国語	2=算数	3=その他
選択肢			
その他の教科名			

小学校3年以上

	1=国語	2=算数	3=理科	4=社会	5=その他
選択肢					
その他の教科名					

中学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=その他				
その他の教科名					

高等学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=情報	7=その他			
その他の教科名					

注1)ここでいう「デジタル教科書」とは、平成26年8月1日現在で使用している教科書に準拠し、教員が電子黒板等を用いて児童生徒への指導用に活用するデジタルコンテンツをいう。

注2)文部科学省から配布されている英語ノート及び「Hi Friends!」は含めない。

2. DAISY^{注3)}教科書・教材の利用

(1)DAISY教科書・教材を利用している児童生徒はいますか。

(1)選択肢一覧	1=いる 2=いない
----------	---------------

【(1)で「いる」を選んだ方へ】

(2)「いる」の場合は人数を教えてください。

人

注3)「DAISY」とは、Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書の国際標準規格として、12カ国の正規会員団体が構成するデイジーコンソーシアム(本部スイス)により開発と維持が行なわれている情報システムをいう。

V 特別な支援を必要とする児童生徒へのICT機器の活用状況

1. 活用の状況について以下の内容を確認していただきながら、選択またはお書きください。
(項目は3つまで設けております)

障害種 選択肢一覧 (主なものを1つ選 択)	1=視覚障害 2=聴覚障害 3=肢体不自由 4=病弱 5=知的障害 6=自閉症 7=LD 8=ADHD 9=重複障害 10=未診断
---------------------------------	--

指導の場 選択肢一覧	1=通常の学級 2=特別支援学級 3=通級指導教室
---------------	---------------------------------

(記入例)

学年	小学校3年生
障害種	7
指導の場	3
子どもニーズ・特性	視機能に課題が在り、読みの困難がある。
機器の種類・特性	ノートPCを使用し、ビジョントレーニングのソフトウェアを使用。動きや音があるため、興味をもって取り組める。
指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)	
ねらい: 視機能のトレーニング 内容: ビジョントレーニングのソフトウェアを使用した練習 形態: 個別指導 効果: 興味をもって取り組み、進んで練習に臨んだ。現段階では効果と言えるものは出ていないが、継続して取り組ませたい。	

(記入例)

学年	小学校2年生
障害種	8
指導の場	1
子どもニーズ・特性	集中して指示を聞くことが困難で、説明を理解するまでに時間がかかる。
機器の種類・特性	実物投影機と液晶テレビを使用。テレビ画面に実物を映す。
指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)	
ねらい: 漢字ノートの使用方法の説明 内容: 実物を画面上に写しながら使用方法を説明する。 形態: 一斉指導 効果: 実物のノートが映し出されるため、興味をもって説明を聞くことができ理解もスムーズだった。	

(記入例)

学年	小学校4年生
障害種	5
指導の場	2
子どもニーズ・特性	知的障害があり, 語彙が少なく会話が難しい。
機器の種類・特性	タブレット型コンピュータにVOCAのソフトウェアを入れ, 会話の補助具として使用する。
指導のねらい及び内容と指導形態, 実際の効果(可能な範囲でお書きください)	
ねらい: 自分の意志を相手に伝える。 内容: タブレット型コンピュータにVOCAのソフトウェアを入れ, コミュニケーションボードとして会話の際に活用する。 形態: 個別指導 効果: 機器に興味を示し指さそうとする	

①

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
指導のねらい及び内容と指導形態, 実際の効果(可能な範囲でお書きください)	

②

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
指導のねらい及び内容と指導形態, 実際の効果(可能な範囲でお書きください)	

③

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
指導のねらい及び内容と指導形態, 実際の効果(可能な範囲でお書きください)	

2. 特別な支援を必要とする児童・生徒へのICT機器の活用についての課題等をお書きください。(自由記述)

--

これでアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この回答用紙をメールに添付し、v-ict-res2@nise.go.jp まで送信してください。

なお、ファイル名<特総研ICTアンケート小中高(学校名)>の()の中に、貴校の学校名をお書きください。